

国会参考人の憲法学者 3 人全員が違憲であると断じ、数千人の学者・研究者が反対のアピール！

安倍政権による「国際平和支援法」と 10 本の戦争関連法「戦争をしない国」から「戦争をする国」へ！

公園ウォッチ (取手には大小231か所の公園があります)

子どもが楽しく遊ぶ公園。緑に包まれてホッとする場所。お散歩、スポーツ、おしゃべり・・・地域のお祭り会場や、緊急避難場所にもなっている身近な公園。安全？利用しやすい？魅力度は？
6月に4か所の公園調査を行いました。今後も市内外の公園ウォッチを行い、安心で魅力的な公園について考えていきます。皆さんもぜひご参加ください。



アルスの森アジサイ公園 (小文間)



アルスの森サクラ公園 (小文間)



北浦川緑地 (中田)



野鳥観察の森 (小文間)

世論は過半数が反対。特に女性たちは反対多数！

**安全保障
関連法案反対!**

日本が攻撃されていなくても、その時々政府の勝手な判断で武力行使！

立憲主義、民主主義、平和主義を破壊して、殺し・殺される国へ！



米国等の戦争に、世界のどこにも自衛隊出張！平時から同盟軍！

兵站だろうが武器を使用したら交戦状態。侵略か防衛かは、時の政府のご都合・・・米国等の戦争参戦で、日本も当事国。自衛隊が国際法違反の「侵略軍」になってしまう可能性も！そして国民も、「敵国」からの報復、テロの標的・・・

ことバス体験ツアー

「誰もがいつでもどこにも気軽に」と、市町合併後の平成18年に運行が始まった取手のコミュニティバス「ことバス」。
いつも利用しているお母さんの声は「安いし、市の重要施設を周ってくれるし、エコだよ」でも、慣れた人しか使えず空席も目立ち、もったいない！というわけで、昨年に引き続き、4月末、2回目の体験ツアーを企画。グリーンズポーツセンターを目指しました。

東南ルート(青バス)で藤代庁舎11時発。かたらいの郷で満席に。取手駅で西部ルート(朱色バス)に乗り換え、こちらもほとんど満席です。新取手駅、あけぼのを通りグリーンズポーツセンターに到着。涼しい緑の中でお弁当を食べました。
帰路は取手市役所で北部ルート(新型車両でした)に乗り換え、14時6分藤代庁舎着。

この企画に参加された藤代の男性は、グリーンズのボートの男性に、3回車で通われているが、将来の移動が不安で参加されたそうです。



- ・便数が少ない
- ・ルートが複雑、乗換えが分かりにくい
- ・時刻表の見方が分かりにくい
- など、工夫も必要この声もありますが、乗ってみると、
- ・運転手さんが親切
- ・ワンストップバスで乗降しやすい
- ・なんととっても安い(1日券200円)
- ・買い物で膨らんだリュックを背負った人、楽しそうに会話をする人たちなど、市民の重要な足になっていることを実感しました。
- ・でもやっぱり、気軽に問い合わせる窓口があったらいい・・・バス停には、パンチと雨除け、日よけ屋根は必須・・・細かい物を見るのが苦手です。お疲れ世代は思います。
- みなさん、まずはぜひ乗って、実感してみてください。

参加者M

福島原発事故から4年

福島原発事故後の廃炉に向けた作業は、困難が続き未だ収束には至っていません。
3・11に官邸が発した「原子力緊急事態」も、解除されていません。



事故後、福島県の18歳以下の子どもたちの先行検査+本格検査で、甲状腺がんの「悪性ないし悪性疑い」126人(良性結節1例除く)、手術で103人が甲状腺がんと確定されました。

これまで、国や県民健康調査検討委員会は、原発事故による放射線被ばくと甲状腺がんの関連を否定してきました。しかし、

*5月18日検討委員会は、事故前に比べて、小児甲状腺がんが「多発」「数十倍オーダー多い」と認めた

*2巡目の本格検査で、新たに甲状腺がんの子が出てしまっている現在、スクリーニング効果論も否定された

*手術症例は、甲状腺腫瘍ガイドラインに沿っており、過剰診療にあたらない

*発症率に地域差(汚染度合いの差)がある

向き合っていくには、あまりに辛い現実です。しかし、その現実を隠しごまかし、国は強制的帰還を進めています。

私たちが暮らす取手や関東のホットスポットも、福島県の1部と同等に放射性物質に汚染されました。定期的な放射線量測定はもとより、甲状腺や、血液、心電図検査等が必要です。

チェルノブイリ事故から28年目のウクライナでは甲状腺がんだけでなく、そもそも健康な子どもが非常に少ない。殆どが複数の病気をかかえています。
辛い現実ですが、国の施策として、子どもの健康を守るために、年2回医師による検診を実施し、計画的に子どもたちの保養も行い、体内の放射性物質を排出・療養し、複数の検査項目の数値が改善されているそうです。

チェルノブイリでの事例も参考にし、予防原則を第一に、子どもたちのためにできることは全て速やかに実施すべきです。





池田めぐみ 議会レポート

平成27年6月第2回定例市議会

安心なまちへ

・・・一般質問・・・

- ★支援が必要な児童のサポート体制
- ★学習支援について
- ★SNSの有効活用

安心・安全は、正しい情報を早く届けることから！
市メールマガジンの有効活用を

4月15日深夜のボーガン事件！取手市メールマガジン配信は午前11時

新年度早々のため学校のメール登録は未完了。そのためどこからも情報が無く、子どもたちは知らずに登校。下校時に保護者への文書配布。第2第3の被害はなかったけれど・・・

防災無線でも情報を流すべきだった

学校登録と同時に取手市メールマガジン登録にならないのかしら？まず、自分で登録ね。

工～、防災無線じゃ聞こえる人と聞こえない人がいる

行方不明者情報や、防災無線で流れた内容がすべて、メールでも受け取れると、市外にいても状況がわかるのだけど

防災無線内容は、取手市HPの防災無線内容か、フリーダイヤル0120-860-004でも確認できるけど、緊急時はつながらないことも・・・SNSも、もっと活用してほしい



一般質問

学習支援ティーチャーを
導入しよう！

取手市では、生活支援が必要な児童・生徒のために、市独自で教育補助員を配置し、平成27年5月現在で100名います。

教育補助員の充実と同時に、学習向上を目的とした学習支援ティーチャーの導入について質しました。教育委員会は「提案は聞きましたが、今後も継続して訴えて行きます。」



放課後子どもクラブ
学習アドバイザー増員へ
放課後子どもクラブには、効果的な運営を図るための放課後児童支援員と、児童の学習指導を行う学習アドバイザーがいます。しかし、子どもクラブ15か所に対し、学習アドバイザーは6名しかいません。
支援員は、原則学習指導はできません。でも、子どもたちは宿題の分からないことも聞きたがっています。各クラブ専任の学習アドバイザーがいたら毎日学べます。学習アドバイザー増員を訴えましたが、6名の現状維持という答弁。今後も重要性を訴えて行きます。

学習を支援する先生の増員を！

戸頭東保育園での経過

県からの指導・改善命令

H27年2月、不適切保育への指導。3月・4月と運営全般の監査3回入る。勤務実態が不透明な人への給料の支払いや、不透明な物品購入方法等、不適切な事務処理があり、改善指導。

H26年11月

0歳児クラスの給食時に無理やり食べさせていると市へ通報有り



保育園・父母会・保護者で2度話合う

市から実態確認と改善を保育園に依頼

市から実態確認と改善を保育園に依頼

指導改善すると保育園から報告

2歳児クラスでも！

子どもの叱り方が酷いと通報有り



H27年1月30日
文書にて市長名で改善命令を通知

H27年1月

0歳児クラスでゆさぶる等の不適切保育再度有りと通報。



平成24年4月、市から小瀬福祉会に戸頭東保育園の運営が移管譲渡されました。しかし、「不適切保育」や「不適切な事務処理」など多くの問題が出てしまいました。不適切保育(虐待)では、命にもかかわる事故につながる可能性もあり、極めて重大な問題です。
市からは、「現在は平常に戻りつつある」という報告ですが、原因究明には触れられず、子どもたちのことを思うと到底納得できません。二度このようなことを起こさないためにも、きちんと調査し、より良い移管体制を確立する必要があります。調査する委員会「百条委員会」を設置するべきと考えます。

戸頭東保育園問題、
調査(百条)委員会を設置するべき！